

～「志」を宿し、「いかに生きるか」を考えるために～

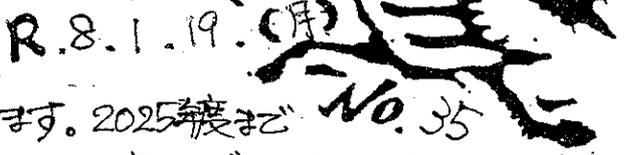
生徒指導通信



時代は変わる

R.8.1.19. (月)

No. 35



おはさん(父)の秋田さきがけ新聞を読んだでしょうか。今年は公立高校入試が大きく変わる年でニュースでも大々的に取り沙汰されています。2025年度まではアナログな感じの受検手続き・合格発表でしたが、一気にデジタル化されました。思い起こせば私の代の高校入試は3教科(国・数・英面接なし)で、次の年から5教科導入が決まっていました。「教科数が少なくて楽だな!」と思う人がいるかもしれませんが、何か一教科をミスすると挽回できないという側面もあり、なかなか厳しかったです。合格発表は各高校前に張り出され、テレビも朝早くから、全県の高校が順番に合格者の受検番号(確か氏名も)を放映していました。個人情報保護という意識は全くなく、それが当然なこととして行われていました。SNS時代の現代では個人情報保護の重要性から『プライバシー権(個人の私生活に関する事柄「情報、姿、行動など」をみだりに他人に知られたり、公開されたり、干渉されたりしないように保護する権利)』として公表はけいふことによったのも時代の変化ですね。

「受験」と「受検」の使い分けについて



生徒の皆さんはあまり意識する必要はありませんが、雑学?として覚えておく「受験」と「受検」は次のように使い分けます。

試験を受けるのが「受験」。検査や検定を受けるのが「受検」。明桜、国学館、聖霊学園、秋田令和などの私立高校は入学試験を行うので、「受験」です。受験料、受験番号、受験票などと書きます。

公立高校、高専、美大附は学力検査を行うので「受検」です。検定料、受検番号、受検票などと書きます。

私立と公立の違いか、と思いきや、秋田修英高校は私立高校ですが入学検査、検定料と明記していますので、その高校によって違うようです。

したがって、入学試験全般について大きなくくりでは「受験」を使い、個別に区別するときは「受検」の漢字を使うようにします。



北斗星

40年ほど前に受験した県立高校入試の合否は、早朝に自宅で新聞を見て確認した記憶がある。また合格者の氏名が公表されていた頃で、テレビでも合格者を紹介する番組が朝に放送されていた▼その後、発表の時間が夕方になったほか、プライバシー保護の観点から報道機関に合格者名簿が提供されなくなった。受験生は各高校の掲示などで受験番号を確認するようになり、掲示板前で友人や家族らと合否を喜び合う風景は恒例だ▼だが3月実施の入試から掲示は廃止される。出願からオンライン化され、合否は専用サイトで本人分だけ確認できる仕組みとなる。友人と緊張感を共有しようとしてスマートフォンを手に集まって確認する受験生もいるだろうか▼大学入試では遠隔地からの受験生が多く、掲示板を見に行く人はいなかった。インターネットが普及する前、そんな受験生が頼ったのは電報。「サクラサク」「サクラチル」が有った▼「電報文のアイデア1100例」(有海千尋著、有紀書房)によると、こうした文面の合否電報は、各大学の学生自治会などが受け付けて送っていた。特徴ある文面の一例に秋田大の合格を表す「ナマハゲカンゲイスル」が掲載されている。この電報に喜んだ方もいるだろう▼県内では先週、私立高校の推薦入試が行われ、本格的な受験シーズンに入った。今週末には大学入学共通テストがある。緊張感ある日々の中、息抜きに合格を喜ぶ瞬間を思い浮かべてみるのもいいのでは。< No.8.1.15 >

40年ほど前に受験した県立高校入試の合否は、早朝に自宅で新聞を見て確認した記憶がある。また合格者の氏名が公表されていた頃で、テレビでも合格者を紹介する番組が朝に放送されていた▼その後、発表の時間が夕方になったほか、プライバシー保護の観点から報道機関に合格者名簿が提供されなくなった。受験生は各高校の掲示などで受験番号を確認するようになり、掲示板前で友人や家族らと合否を喜び合う風景は恒例だ▼だが3月実施の入試から掲示は廃止される。出願からオンライン化され、合否は専用サイトで本人分だけ確認できる仕組みとなる。友人と緊張感を共有しようとしてスマートフォンを手に集まって確認する受験生もいるだろうか▼大学入試では遠隔地からの受験生が多く、掲示板を見に行く人はいなかった。インターネットが普及する前、そんな受験生が頼ったのは電報。「サクラサク」「サクラチル」が有った▼「電報文のアイデア1100例」(有海千尋著、有紀書房)によると、こうした文面の合否電報は、各大学の学生自治会などが受け付けて送っていた。特徴ある文面の一例に秋田大の合格を表す「ナマハゲカンゲイスル」が掲載されている。この電報に喜んだ方もいるだろう▼県内では先週、私立高校の推薦入試が行われ、本格的な受験シーズンに入った。今週末には大学入学共通テストがある。緊張感ある日々の中、息抜きに合格を喜ぶ瞬間を思い浮かべてみるのもいいのでは。< No.8.1.15 >

今春から 願書提出 合格発表 オンライン化

受験生、教員の負担減 図る

今年3月に実施される県立高校の入試から、願書提出と合格発表がオンライン化される。県教育庁が受験生と教員の事務作業の負担軽減を図ろうと、出願から合格確認までをインターネットで完結できるシステムを導入した。高校敷地に合格者の受験番号を張り出して発表する方法は廃止され、掲示版の前で受験生が友人や家族と喜びを分かち合う姿は見られなくなる。

県立高校入試

合格発表は毎年、発表日に各校が合格者の受験番号を掲示していた。オンライン化により、今年の入試から受験生は専用サイトのマイページで合否を確認する。結果は本人分のみ表示され、中学校にも通知される。県教育庁高校教育課は「掲示版の設置、受験番号の確認といった作業は現場に負担がかかっていた。県教育庁高校教育課は、とめ、各高校に持参していた。受験料の支払いも県証紙のみだった。

今年からは、受験生がパソコンやスマートフォンなどで願書を作成する。専用サイトのマイページで住所や顔写真、志願校と学科を登録。クレジットカードやコンビニ決済で受験料を納付後、登録データを中学校に送信できるようになる。中学校がデータを確認して承認すれば、高校側に送信されて出願が完了。受験票はサイトからダウンロードして試験会場に持参する。

受験番号、張り出し廃止

システムが本格稼働した。

26年度の1次募集（特色選抜、一般選抜）の願書受け付けは2月2日～5日。試験は2月4日に実施される。合格発表は同日。

高校教育課は「オンライン化は入試の事務作業を減らして効率化を図

り、教育の質をさらに高めることが目的。新たに始まる制度なので、学校や受験生、保護者の不安がないように運用したい」としている。同様のオンライン化は公立、私立高校でも導入される。県立高校入試のシステム操作の問い合わせはサポートデスク0120・8001067（平日午前9時～午後5時）。メールアドレスはshutsu@banakita@senbatsu.jp

（斎藤慎太郎）

県立高校入試手続きの主な変更点

2025年度まで → 26年度から

願書提出	受験生が手書きで作成。書類は中学校の教職員が高校に持参	専用サイトからパソコンやスマートフォンで入力し、高校へ送信
受験料納付	県証紙	クレジットカードやコンビニ決済
合格発表	各高校が受験番号を張り出し	受験番号の掲示を廃止。受験生が専用サイトのマイページで確認

※県教育庁高校教育課への取材に基づく

県教育庁は昨年9月末～10月末、県内全ての中学3年生を対象に模擬出願を行い、操作方法や手続きの流れを確認した。11月末にもオンラインで各中学高校の担当者に操作説明会を開き、12月に



昨年3月の合格発表で受験番号を見つけた喜ぶ秋田北鷹高の受験生。今年からの光景は見られなくなる